

株式のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金 受領株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL (http://www.presskogyo.co.jp)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所第一部
証券コード	7246
単元株式数	100株

【株式に関するお手続きについて】

● 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> 特別口座から一般口座への振替請求 単元未満株式の買取(買増)請求 住所・氏名等のご変更 特別口座の残高照会 配当金の受領方法の指定※ 	特別口座の 口座管理 機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL: 0120-232-711 (通話料無料) 【手続書類のご請求方法】 <ul style="list-style-type: none"> 音声自動応答電話によるご請求 TEL: 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

● 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

PRESS プレス工業株式会社

〒210-8512 川崎市川崎区塩浜一丁目1番1号
TEL: 044-266-2581 (代表) FAX: 044-276-3934
http://www.presskogyo.co.jp

創立90周年特設サイトのご案内

このたび、当社は創立90周年を迎えました。これも偏に、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの方々のご理解・ご支援の賜物であり、厚く御礼申し上げます。
当社ホームページにて、創立90周年を記念した特設ページを設けさせて頂きましたので、是非ご覧下さい。

<http://www.presskogyo.co.jp/90th/>



株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **7246**

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL: info@e-kabunushi.com

PRESS KOGYO

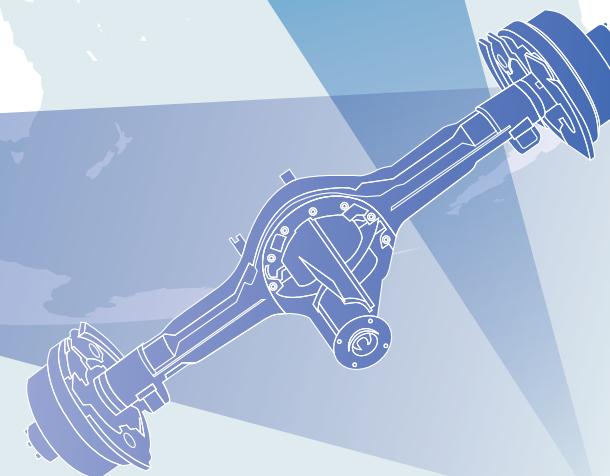
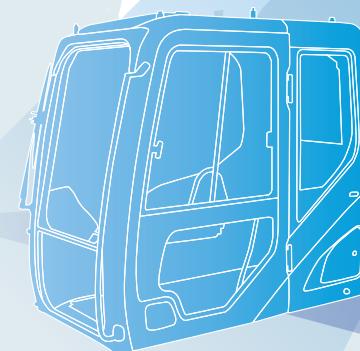
株主通信

第113期 報告書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで



Pursuing Further Growth as a Global Specialty Manufacturer





株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社はこの度、第113期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の会計年度を終了いたしました。プレス工業グループ丸となって売上の拡大と収益力の強化に取り組んだ結果、2期連続で増収増益を達成することができました。

ここに当期の経営成績と今後の事業戦略について謹んでご報告させていただきます。

代表取締役社長

角堂 博茂

Q 2015年3月期の経営環境と連結業績の概要、ならびに経営成績に対する自己評価をお聞かせください。

A 厳しい事業環境のなか、収益基盤のさらなる強化に取り組み、2期連続の増収増益を達成しました。

国内の事業環境は、公共工事の増加に伴う建設関連車両の需要拡大に支えられ、自動車部品、建設機械用キャビンともに概ね堅調に推移しました。とくに建設機械用キャビンでは、国内向けにROPS仕様の生産台数が大幅に増加しました。一方、海外事業は、米国お

よび欧州で好調を維持したものの、中国、タイ、インドネシアでは内需不振などの諸要因により厳しい状況が続いています。

こうした事業環境のなか、当社グループは生産性向上活動や物流改善などの合理化策を実施して収益基盤のさらなる強化を図るとともに、将来の収益源となる新規事業の創出にグループを挙げて取り組みました。この結果、2015年3月期の連結業績は、2期連続で増収増益を達成することができました。ただし、為替が円安に振れたことにより売上、利益が底上げされた側面もありますので、好業績に安住することなく、経営努力を続けていく必要があると気を引き締めています。

Q 当期は2019年3月期を最終年度とする中期経営計画の初年度でした。当中期経営計画の骨子と現在の進捗状況をご説明願います。

A 地震シェルターやバイクガレージなど、新事業・新製品の創出において、成果を残すことができました。

中期経営計画では「コアビジネス拡大による成長戦略」「構造改革による経営基盤の強化」「新たな事業の

連結業績



※業績予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性がありますので承知おきください。

(本社札幌) と共同で有機ハイドライド方式による水素供給装置を開発するなど、将来を見据えて次世代エネルギー関連事業にも積極的に取り組んでおります。

Q グローバル展開の現況と、今後の戦略についてご説明ください。

A 創立100周年を「業界No.1のグローバル企業」として迎えたいと考えています。

当社グループは、海外5か国に12の生産拠点を展開しており、従業員数も日本国内の2,800人に対して海外は3,400人と、海外主導の事業推進体制が確立しています。中国は建設機械用キャビン、タイはピックアップトラック向け、インドネシアは建設機械用キャビンとトラック向けに特化し、生産・調達・販売において相互に補完する体制を構築しています。

ヨーロッパではVOLVO社以外への拡販にも注力しており、アメリカでは今般、日系自動車メーカーのベストセラーカーに当社製のドアインパクトビームの採用が決定されました。今後も、相互補完体制の強化と北米における拡販を中心にグローバル展開をさらに加速し、会社創立100周年を迎える2025年までに「業界No.1のグローバル企業」への飛躍を確実なものにしたいと考えています。

Q 昨今、わが国では企業統治や資本政策の在り方に関する議論が活発化しています。プレス工業の考え方と取り組みをご紹介ください。

A 社外取締役2名の新体制のもと、取締役会の助言機能強化に取り組んでいます。

資本政策については、自己資本の充実を図りつつ、効率的な経営を追求することで自己資本利益率(ROE)の向上を目指しています。中期経営計画では2019年3月期の目標数値として、自己資本比率50%以上、自己資本利益率(ROE)12%以上を掲げましたが、十分に達成可能な数値と捉えています。

コーポレートガバナンスについては、本年6月の株主総会において、社外取締役2名を含む新体制を承認いただきましたが、社外取締役のひとりにはトラックメーカーで経営に携わった製造技術のエキスパートで、もうひとりには大学で副学長を経験された機械加工の専門家です。おふたりの社外の目で見えた経験や知見を当社グループの経営に活用し、取締役会をより一層実効性と透明性を兼ね備えた会議体に育てていきたいと考えています。

Q 2016年3月期の経営環境と業績の見通しはいかがですか。

A 現時点では増収減益予想ですが、国内・海外で収益力の強化に努めることにより業績数値の上積みを図ってまいります。

業績予想の策定に当たっては、トラックメーカーや建設機械メーカーの販売計画を綿密にリサーチしています。タイでは底打ち感があるものの、中国およびインドネシアの建設機械向けは依然として厳しい状況が続くものと見ています。こうした状況を踏まえ、2016年3月期の連結業績予想は、売上高1,996億円、営業利益94億円、経常利益90億円、親会社株主に帰属する当期純利益57億円といたしました。引き続き国内・海外で収益力の一層の向上に取り組むことにより、業績数値の上積みを図っていく方針です。

Q 株主の皆様への利益還元方針と今後の配当見通しについて、ご説明ください。

A 安定的な配当の継続と利益成長による株主価値の最大化に力を注いでいます。

当社は株主の皆様への利益還元を最重要の経営課題のひとつに位置づけ、安定的な配当と利益成長による株主価値の最大化に力を注いでいます。2015年3

月期の配当は年間11円とさせていただきましたが、次年度以降も配当性向につきましては、およそ20%を目処として安定した配当を継続していきたいと考えています。同時に、将来の投資に備えて内部留保の充実にも注力し、グループの持続的な発展を期してまいります。

当社は本年6月に創立90周年を迎えました。90年という長期にわたり、先進的なものづくりを通じて社会と産業の発展に貢献できたのも、株主様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。当社グループは今後も、経営理念に掲げた通り「誠実と努力」によって、株主様、お客様、従業員、地域社会からの信頼にお応えしてまいります。株主の皆様にはこれまでと同様のご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。



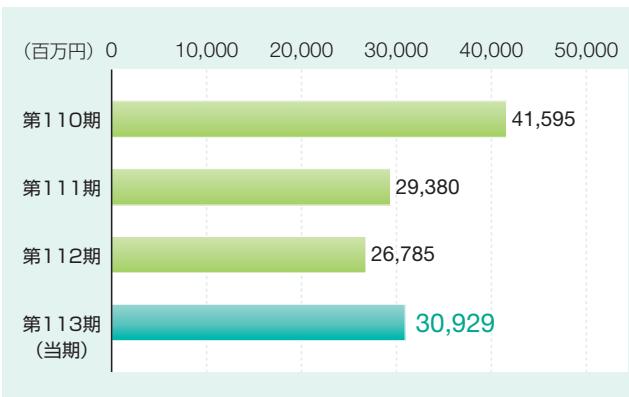
SALES BY SEGMENT / MAJOR FINANCIAL INDICES

[セグメント業績 / 主要財務指標]

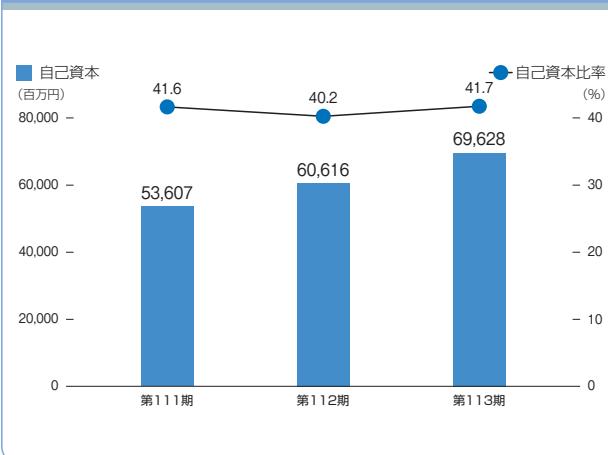
自動車関連事業



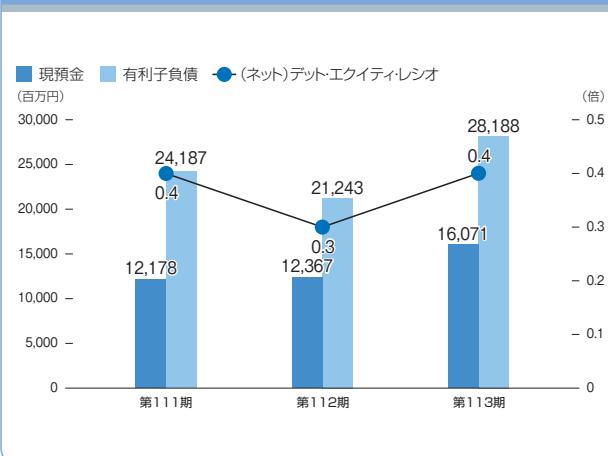
建設機械関連事業



自己資本 / 自己資本比率



有利子負債 / (ネット) デット・エクイティ・レシオ



FINANCIAL STATEMENTS (CONSOLIDATED)

[連結財務諸表]

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科目	期別	第113期 平成27年 3月31日現在	第112期 平成26年 3月31日現在
資産の部			
流動資産		70,003	59,706
貸倒引当金		△25	△15
固定資産		96,938	91,127
有形固定資産		84,338	80,663
無形固定資産		1,236	1,344
投資その他の資産		11,363	9,118
資産合計		166,941	150,833
負債の部			
流動負債		61,308	53,749
固定負債		31,096	31,791
負債合計		92,404	85,540
純資産の部			
株主資本		46,963	42,794
資本金		8,070	8,070
資本剰余金		2,075	2,074
利益剰余金		38,014	33,842
自己株式		△1,196	△1,192
その他の包括利益累計額		22,665	17,822
その他有価証券評価差額金		2,945	1,325
土地再評価差額金		16,843	16,013
為替換算調整勘定		2,999	1,363
退職給付に係る調整累計額		△122	△879
少数株主持分		4,907	4,676
純資産合計		74,536	65,293
負債・純資産合計		166,941	150,833

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	期別	第113期 自平成26年4月1日 至平成27年3月31日	第112期 自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高		197,615	183,618
売上原価		174,900	162,126
売上総利益		22,715	21,491
販売費及び一般管理費		12,893	12,091
営業利益		9,821	9,400
営業外収益		1,600	1,239
営業外費用		627	541
経常利益		10,794	10,098
特別利益		154	469
特別損失		385	296
税金等調整前当期純利益		10,562	10,270
法人税等		4,421	3,893
少数株主損益調整前当期純利益		6,141	6,377
少数株主利益 又は少数株主損失 (△)		△215	106
当期純利益		6,356	6,270

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科目	期別	第113期 自平成26年4月1日 至平成27年3月31日	第112期 自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー		9,657	13,906
投資活動による キャッシュ・フロー		△10,899	△18,599
財務活動による キャッシュ・フロー		3,967	3,968
現金及び現金同等物に係る 換算差額		616	1,038
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)		3,341	313
現金及び現金同等物の 期首残高		12,153	11,840
現金及び現金同等物の 期末残高		15,495	12,153

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

「プレス工業株式会社 90年のあゆみ」

おかげさまで、本年6月に当社は創立90周年を迎えました。グローバル専門メーカーとして成長・発展を続ける当社のこれまでの90年の歴史を振り返ります。



創立時、当社が初めて導入したプレス機
(600tトッフルドローイングプレス機)



本社・川崎工場全景(1937年)



東洋工業株式会社小型3輪
トラック用リアアクスルケース



いすゞ自動車株式会社
大型トラック用リアアクスルケース



完成車組立ライン

1937 (昭和12年)

本社、工場を東京都品川区大井より川崎市に移転

1953 (昭和28年)

大型リアアクスルハウジングのプレス化に日本で初めて成功

1967 (昭和42年)

完成車組立事業に進出



PK U.S.A., INC.(1988年7月7日設立、1989年10月18日竣工)

1988 (昭和63年)

PK U.S.A., INC.を米国に設立



THAI SUMMIT PK CO., LTD.
(1989年7月20日設立)

1989 (平成元年)

THAI SUMMIT PK CO., LTD.をタイ国に設立

1991 (平成3年)

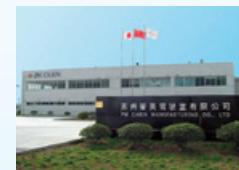
小型アクスルユニット生産開始

1993 (平成5年)

特装車生産開始

1999 (平成11年)

異形鋼管加工技術を建設機械用キャビンに応用



蘇州普美駕駛室有限公司
(2004年7月設立)

2004 (平成16年)

蘇州普美駕駛室有限公司を中国に設立



PT.PK Manufacturing Indonesia
(2011年8月設立)

2011 (平成23年)

PT.PK Manufacturing Indonesiaをインドネシア国に設立

2012 (平成24年)

普萊斯工業小型駕駛室(蘇州)有限公司を中国に設立

1920

1930

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

1925 (大正14年)

当社前身「合資会社プレス作業所」創業(東京都品川区) 鉄道車両部品、建築材料類のプレス加工開始



合資会社プレス作業所
大井本社・工場全景

1929 (昭和4年)

自動車用フレーム生産開始、自動車部品事業に進出



軍用保護トラック用
フレーム第1号
(1929年)

1934 (昭和9年)

会社組織を株式会社に改め、現社名に改称



藤沢工場(1961年10月)

1961 (昭和36年)

藤沢工場稼働

1968 (昭和43年)

尾道工場稼働



尾道工場第1期工事完成披露式
(1968年11月21日)

1976 (昭和51年)

宇都宮工場稼働



宇都宮工場竣工式
(1976年10月15日)

1977 (昭和52年)

建設機械用キャビン生産開始



建機キャビン

2005 (平成17年)

株式会社プレス工業埼玉製作所と合併、埼玉工場として稼働

2001 (平成13年)

事業構造改革により「コア商品の専門企業」を目指す

2000 (平成12年)

大型アクスルユニット生産開始

2013年に導入した当社最新鋭のプレス機
宇都宮工場アクスルプレスライン



2008 (平成20年)

THAI SUMMIT PK CORPORATION LTD.をタイ国に設立

2015 (平成27年)

「地震シェルター」を開発、販売開始

GROUP NETWORK

[グループネットワーク]



CORPORATE DATA / STOCK INFORMATION

[会社データ / 株式の状況]

会社概要 (平成27年3月31日現在)

商号 プレス工業株式会社
PRESS KOGYO CO., LTD.
本店所在地 〒210-8512
川崎市川崎区塩浜一丁目1番1号
TEL 044-266-2581 (代表)

事業所所在地 川崎工場 (川崎市川崎区)
横浜事務所 (横浜市西区)
宇都宮工場 (栃木県下野市)
埼玉工場 (埼玉県川越市)
藤沢工場 (神奈川県藤沢市)
尾道工場 (広島県尾道市)

創立 大正14年2月16日
資本金 8,070,221,336円
従業員数 1,930名 (連結従業員数 6,222名)

役員 (平成27年6月26日現在)

代表取締役社長兼社長執行役員(CEO)	角堂 博茂	監査役(社外監査役)	竹内 淳	上席執行役員	馬林 栄司
代表取締役副社長兼副社長執行役員(CTO)	高橋 正美	監査役(社外監査役)	中川 治	執行役員	矢原 洋
取締役兼専務執行役員(CFO)	齊藤 正人	監査役	鳥谷尾雅幸	執行役員	内田 正巳
取締役兼常務執行役員	池田 裕彦	常務執行役員	尾浪 和彦	執行役員	二村 幸一
取締役兼常務執行役員	美野 哲司	常務執行役員	行川 満夫	執行役員	増田 昇
取締役兼常務執行役員	村山 哲	常務執行役員	遠藤 徳明	執行役員	中山 雅一
取締役(社外取締役)	原田 忠禮	常務執行役員	石丸 隆夫	フェロー	ピーター・カドストム
取締役(社外取締役)	山根八洲男	常務執行役員	瀬上 和利		
常勤監査役	星野 克行	常務執行役員	中山 隆史		

株式の状況 (平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数	240,000,000 株
発行済株式の総数	114,007,210 株
株主数	7,536 名

主要な子会社 (平成27年3月31日現在)

株式会社協和製作所
尾道プレス工業株式会社
銚金工業株式会社
PK U.S.A., INC.
PRESS KOGYO SWEDEN AB
THAI SUMMIT PKK CO., LTD.
THAI SUMMIT PKK BANGPAKONG CO., LTD.
THAI SUMMIT PK CORPORATION LTD.
蘇州普美駕駛室有限公司
普萊斯冲圧部件(蘇州)有限公司
普萊斯工業小型駕駛室(蘇州)有限公司
PT. PK Manufacturing Indonesia (他14社)

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
いすゞ自動車株式会社	10,151	9.34
JP MORGAN CHASE BANK 385632	6,487	5.97
NORTHERN TRUST CO.(AVFC)RE NV101	6,296	5.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,934	5.46
RBC ISB A / C DUB NON RESIDENT-TREATY RATE	3,900	3.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,354	3.09
プレス工業従業員持株会	2,254	2.08
プレス工業取引先持株会	2,189	2.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	2,165	1.99
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	1,985	1.83

※1. 上記のほか、当社が保有している自己株式が、5,378,905株あります。
※2. 持株比率は自己株式保有総数を控除して計算しております。

